



<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生、卒業生に発表の場を提供しております。

この企画は、日本画を志す若手作家の育成と共に、各地域の文化芸術の支援活動を通じてあいおいニッセイ同和損保の活動指針である「地域密着」を具体化する取り組みです。

2023 年は、昨年の 7 校から新たに 2 校の美術大学を加え、9 校の若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（2 月～8 月）となります。

今回は、7 月 22 日（土）から「東京藝術大学日本画第二研究室六人展」を開催いたします。

■タイトル / 「まなざしのむこう」

～ 第21回 大学日本画展<東京藝術大学日本画第二研究室六人展> ～

■会 期 / 2023年7月22日(土)～8月6日(日) 11:00～19:00 *最終日 17:00 まで
<月曜定休>【入場無料】

■会 場 / UNPEL GALLERY

東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F

■参加作家名（ふりがな）

・澤崎 華子(サワサキ ハナコ) ・古山 結(フルヤマ ユイ) ・角谷 紀章(カクタニ キショウ)

・小田川 史弥(オダガワ フミヤ) ・張 鸞(チョウ ケン) ・宇野 七穂(ウノ ナホ)

計 6 名

■展覧会内容

東京藝術大学大学院美術研究科 日本画第二研究室出身の若手作家6名による展覧会「まなざしのむこう」を開催します。

日本画から出発しつつも自身のまなざしに拠って表現手法を拡張・再選択し続ける作家たちの、近年の大作から最新作まで幅広く展示します。タイトルの「まなざしのむこう」とは、それぞれの作家が見ること、すなわち「まなざしの向こう」を探究するという意味であり、また同時に、それを安易に平面に定着させることに対する迷いや疑義を抱えているという点で「まなざしの無効」という意味でもあります。

それぞれの「まなざしのむこう」をご高覧ください。幸いです。

皆様のご来場をお待ちしております。

【展示予定作品サイズ】

各作家 100 号程度の作品 1 点、他 80 号～10 号 展示予定

■主 催 / 東京藝術大学大学院美術研究科 日本画第二研究室

■企 画 / UNPEL GALLERY

■協 賛 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

■ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・内城）

E-mail / tsubaki@un-pel.com <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

* お問い合わせは E-mail にてお願いします

●作家プロフィール

澤崎 華子 Sawasaki Hanako



東京都出身

2020 東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科
美術専攻日本画領域 修了 博士号取得

(近年の活動)

2019 Future Artists Tokyo “EЯLecture of Anonymous” 東京国際フォーラム
レスポワール展 銀座スルガ台画廊/個展

2020 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程学位論文
「半透明の「かげ」 - 重層する時間の軌跡 -」

2022 「多面の水面」 ニュースペース パ/2 人展



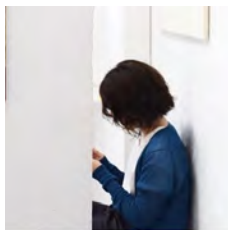
「花とカーデン」2022 年制作/200×300.3×3 mm
アクリル板、和紙、銀箔、岩絵具、膠

(制作について)

主に草花のある風景をモチーフに、時々刻々とうつろいゆく色やかたち、
存在の「かげ」を画面に留め置くように制作している。

近年は、和紙への浸透や裏箔・彩色を施した薄い紙の重なりを岩絵具の物質感と調和させながら、
徐々にイメージを浮かび上がらせる手法を実践している。

古山 結 Furuyama Yui



愛知県出身

2012 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 入学
2021 東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科
美術専攻日本画領域修了 博士号取得

(近年の活動)

2022 「近接遠眺」 CLEAR GALLERY TOKYO/個展
「多面の水面」 ニュースペース パ/2 人展
新・今日の作家展'22「世界にとりとめる」
横浜市民ギャラリー/3 人展



「あたたかい河」2020 年制作/2000×2000×30mm
木製パネル、雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、アクリル絵の具

(制作について)

主に日本画材を用いた表現でありながら、ペニヤや粘土、角材などを扱い、
自ら制作した様々な形のパネルを支持体とした絵画制作などを並行して行う。

角谷 紀章 Kakutani Kisyo



兵庫県出身

2013 東京藝術大学美術学部日本画専攻 入学

2022 東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科
美術専攻日本画研究領域 修了 博士号取得

(近年の活動)

2023 アートフェア東京/四季彩舎

2023 MITATE/2 人展 KATSUMIYAMATO GALLERY
WHAT CAFÉ EXHIBITION Vol.26

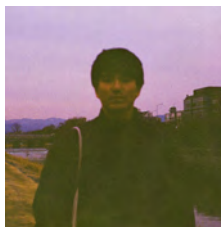
(制作について)

現在では基底材に綿布を用い、アクリル絵の具で描画している。
伝統的な日本画材を使用していないが、水を多用し基底材に
絵の具を染み込ませた表現やコンセプトは東洋的な絵画表現から
着想を得ている。



「宵の街」2022 年制作/162×130.3×3cm
綿布、岩絵具、胡粉、水干絵具、アクリル絵の具、膠

小田川 史弥 Odagawa Fumiya



神奈川県出身

2014 東京藝術大学 絵画科日本画専攻 入学

2020 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程 修了

(近年の活動)

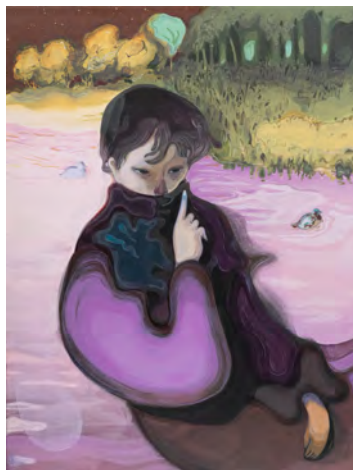
2021 「小田川史弥展」数寄和/個展

2022 「丁寧に夜をならべて」MAKII MASARU FAIN ARTS/個展

2023 「手ではかる距離」子の星/個展

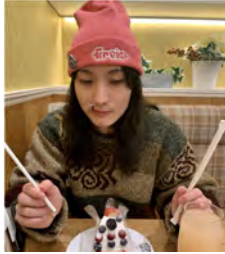
(制作について)

人が人と知り合い親密になるときに、同時に誰かとの付き合いは消えていくような感覚、
その親密さと距離の戯れ・・・私は臍で溶けていく画面に
そのような日常の心地よさと不安が合わさった思い出を描いています。



「秘密」2022 年制作/530×455
キャンバス、アクリル絵の具

張 騫 Cho Ken



中国江蘇省出身

2012 西安美术学院中国画学科 入学

2021 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程 修了

「女性」2023 年制作/330×220
雲肌麻紙、岩絵具、墨

(近年の活動)

2021 STEPS GALLERY/個展

2022 STEPS GALLERY/個展

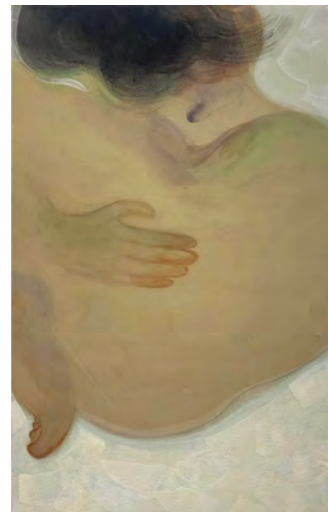
「POLES」張彬文 羅針盤/2 人展

(制作について)

私は、異なるモノの特徴を作品にまとめ、具象や抽象にとらわれない表現方法を見いだそうと試みている。

モチーフの特徴を抽出し、別モチーフからの記憶の断片を融合させ、現実には存在しない、人間でも物体でもない造形を創り上げるのである。

宇野 七穂 Uno Naho



愛知県出身

2016 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 入学

2022 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程 修了

(近年の活動)

2020 「宇野七穂 作品展」ぎやらりい朋/個展

2022 「姿と遠」ギャラリー七面坂途中/2 人展

「掛け軸と絵画の未来展」横浜 三溪園/グループ展

(制作について)

最近では主に、人の姿を俯瞰した自身の視点から、時には共感し、時には包括的に眺め、さまざまな距離から捉えることを行っています。

「めざめ」2022 年制作/530×333
和紙、岩絵具、胡粉、墨、膠